

に次のような記事を掲げている。

繪筆を棄て研究會の小使

此頃の低氣壓再來に盲滅法忙しがつて駆け廻る黒田子繪筆を執つては藝術の殿堂を奥の院まで究めた第一流の洋畫家黒田清輝氏も昨年^{〔昨年〕}同族に推されて上院に議席を得てからは靜かなアトリエでモデルと睨めつこするより天下國家の問題を提げて國政に奔走することの方がお氣に召したのか、この程政界の中心に低氣壓が發生して内閣總辭職か改造か暗雲低迷のこの頃（高橋〔是清〕内閣はこの六月六日総辭職）は更にあの丸い軀^{からだ}を西に東に現して忙しがつてゐる、きのふも朝から司法大臣官邸に出かけて筋向ふの高橋首相官邸の大臣會合の雲行や如何にと案じつゝ午後四時近くまで奥の一室で秘書官と何事か密談を重ねて出かけて來た『や、私しやけふ少し忙しいんだが……是から宮内省へ行つてお寫眞の御用があるから宅へ歸るのは何時になるか判らんが兎も角忙しい』と自動車のハンドルに手をかけながら『併し私は繪描きが本職だけれど議員になつて見れば政治のことは國民として多少なり盡力しなけりやならんと思つて、出来るだけお勤めはする積りですよ、これまでだつて全然政治に興味を持たなくはなかつたが何しろ本職が繪描きだもんでつひ縁が遠かつたんですね、政治のことはまだ素人で私などは大した役目をするのではなく、私は友人としてたゞ知人の所を訪ねると、研究會の方は謂はゞ小使同様お使だけを勤める位のもですよ イヤ眞當に……、斯んな譯で繪は今年になつて小さな物二つ三つ書いたゞけ、其外暇を見

ては頼まれた肖像など描いてゐますがなかなか運ばないでねッハ、夏になれば少し繪の方も描いて見度いと思つてゐるが、臨時議會でもあればまた忙しくなるから厄介で……』と汗を拭くけれども研究會常務としての活躍は外から見れば餘り厄介らしい様子には受取れなかつた

④ 『東京美術學校 近畿古美術案内』と修学旅行

大正十一年三月、標題の手引書が刊行された。同年五月発行の『東京美術學校校友會月報』第二十一卷第一号には次のような広告が掲載されている。

東京美術學校長 正木直彦先生序

東京美術學校教授 大村西崖先生閱

東京美術學校助教 東京女子高等師範學校講師 田邊孝次氏著

東京美術學校 近畿古美術案内
修學旅行

四六半裁細長形、本文五號二百十頁、表紙木版四度刷、
案内地圖附 定價金壹圓八拾錢

本書は著者が東京美術學校に於て再三計畫したる近畿古美術實地研究旅行の案内用として發行せられたるものにして、近畿古社寺約百三十に就き建築、繪畫、彫刻、工藝及由緒を簡明に繁簡度に従ひ記述せるものなり、方今古美術研究の旺盛なる時、奈良、京都地方に遊ばんとする人士の必ず一本を備ふ可きものなり、殊に卷頭の案内地圖は重要な古美術の所在を明示し、卷尾の旅行日程は旅行者の最良の參考たる可し 體裁優美にして然も携帶記

入に便なり、敢て江湖の一讀を薦む。

東京美術學校々友會發行

東京市本郷區湯島六丁目卅番地

發賣所 日本美術學院

電話小石川三五一九番
振替東京五八八八番

渡辺香涯原画による木版色刷りの表紙を用いたこの小冊子は本校生徒の修学旅行携帯用に出版されたものだが、簡便な古美術見学旅行手引書であったため、外の学校の生徒にも愛用されたという。現在、東京芸術大学美術学部で発行している『近畿地方を古美術見学手引』は昭和四十七年に芸術学科の故新規矩男教授の監督のもとに新たに編集されたもので、現在までに既に四回の改訂を経、学生に愛用されているが、その原形はこの四六半截の小冊子にあったのである。

なお、大正期における古美術見学旅行の実施状況を窺うことのできる記録が現存するので参考のため掲載する。

東京美術學校各科第五年級生徒修学旅行心得

(大正十四年二月)

- 一、各科第五年級生徒ニシテ京都、奈良地方古美術實地見学旅行ニ参加希望者ハ本心得承知ノ上來三月十五日迄ニ左記参加届ヲ差出スヘシ
- 二、旅行ハ來四月十五日ヨリ五月一日頃マデ日數凡十七日間トス
- 三、旅行参加者ハ旅行日程豫定表ニ示ス時刻ニ遅レザル様東京驛



校友会月報に掲載された修学旅行成績の一部

- 右上 小野佐世男筆醍醐寺外図
右下 岩田覚太郎筆大野寺山門
上 顔水龍筆旅行スケッチ



大正11年発行『近畿古美術案内』
(矢野孝昭氏提供)

或ハ名古屋驛前ニ集合シ指導員ノ指揮ヲ受クヘシ

四、本旅行中社寺寶物等ヲ觀覽スルニ當リテハ禮ヲ失セザル様特ニ注意スヘシ

五、生徒ハ總テ指導職員並ニ生徒委員ノ指揮ニ從フヘシ 但シ生徒委員ハ本校之ヲ命ス

六、生徒ノ服裝ハ制服制帽トス

七、指導職員ハ旅行中生徒全體ヲ監督ス

八、本修學旅行參加者ニ對シテハ校友會ヨリ多少ノ補助アリ

九、旅行參加ノ生徒ハ來六月二十日迄ニ必ラズ修學旅行報告ヲ教務係ヲ經テ指導教官ニ差出スヘシ 同教官ハ之ヲ本校長ニ提出ス

附則

十、旅行參加ノ生徒ハ旅行中ト雖モ本校規則生徒心得及本旅行心得ヲ堅ク遵守スヘシ 若シ之ニ背キ又ハ指導職員ノ命令ニ從ハス若クハ不都合ノ行爲アリト認ムルトキハ修學旅行ヲ差止メ且補給金ヲ支給セス規則ニ依リテ處分スヘシ

十一、旅行參加生徒ハ三月三十日正午迄ニ一人ニ付金二十五圓ツ、ヲ出張中ノ宿泊料茶代等(往復ノ汽車賃ハ各自支拂フヘキニ依リ此中ニ含マズ)トシテ豫メ本校會計掛ニ供託スヘシ

十二、旅行參加者ハ教務掛ヨリ身分證明書並ニ汽車割引券ヲ受領スヘシ

十三、旅行參加者ノ來四月納付スヘキ授業料ハ五月十五日ヨリ同月十七日迄ノ三日内ニ本校ヘ納付スヘシ

十四、前項供托金及校友會補助金ヲ合算スルモ猶旅費ニ不足ヲ生

シタル場合ハ更ハ追徴スルコトアルヘシ

(參考) 京都奈良地方修學旅行費概算調

○金拾七圓	乗物費
内	
金四圓四十四錢	自東京驛至二見浦驛(一割引ニシテ)
金壹圓五拾六錢	自山田驛至奈良驛(同)
金五拾三錢	自奈良驛至京都驛(同)

譯	金四圓六十三錢	自京都驛至東京驛(同)
金五圓餘	近距離ノ汽車、電車、自働車賃	

○金貳拾五圓 出張中ノ宿泊料、茶代等

計 四拾貳圓

○他ニ小遣 若干圓

.....此ノ處ヨリ切り放ツヘシ.....

修學旅行參加届(集合地ヲ指定シ一方ヲ消スベシ)

現住所

希望集合地	東京驛	科五年生
	名古屋驛前	姓名印

私儀今回ノ修學旅行ニ參加仕度此段及御届候也

大正十四年 月 日

東京美術學校長正木直彦殿

大正十四年 月 日 奈良京都地方古美術實地見學旅行日程豫定表

第一日四月十五日(水) 午後七時三十分 東京驛集合 同八時四十分同驛發車(明石行)

第二日同十六日(木) 午前六時二十二分 名古屋驛下車

同八時 名古屋驛前ニテ旅行隊編成
名古屋離宮拜觀

午後一時四十分 名古屋驛發車(鳥羽行)

同六時〇六分 二見着

伊勢二見 朝日館宿泊

第三日同十七日(金)

內宮、外宮參拜

午後〇時十七分 山田驛發(湊町行)

同四時〇六分 奈良驛着

奈良市公園內 大文字屋旅館宿泊

第四日同十八日(土)

興福寺 金堂、東金堂、南圓堂、
北圓堂、三重塔、五重塔

東大寺 南大門、大佛殿、鐘樓、
三月堂、二月堂、戒壇院

手向山八幡

同館宿泊

同館宿泊

同館宿泊

第五日同十九日(日)

正倉院前

東大寺轉害門

不退寺

法華寺(海龍王寺)

西大寺

唐招提寺 鼓樓、傳法堂、開山堂

藥師寺 三重塔、東院堂、佛足堂

奈良縣生駒郡法隆寺村 大黑屋旅館宿泊

法隆寺

第六日同二十日(月)

中宮寺(法輪寺、法起寺)

午後三時十一分 法隆寺驛發 同四時三

十四分 櫻井驛着輕鐵ニテ初瀬着

初瀬町 井谷屋旅館宿泊

第七日同二十一日(火)

長谷寺

大野寺

室生寺

大和國宇陀郡 室生寺宿泊

第八日同二十二日(水)

聖林寺(文珠院)

談山神社

岡寺(橋寺、安居院、久米寺)

樞原神宮

神宮前ヨリ電車ニテ奈良へ

大文字屋宿泊

第九日同二十三日(木)

新藥師寺(塔頭カ)

十輪院(極樂院)

春日神社

博物館 同館宿泊

第十日同二十四日(金)

博物館

蟹滿寺

平等院(興聖寺、宇治神社、橋寺)

萬福寺

桃山御陵參拜(御香宮)

京都市三條小橋 布袋館旅館宿泊

第十一日同二十五日(土)

午前八時十五分 奈良驛發

第十二日同二十六日(日)二條離宮

京都御所

仙洞御所(下鴨神社)

修學院離宮(詩仙堂) 同 館宿泊

第十三日同二十七日(月)桂離宮

西本願寺

東寺 同 館宿泊

第十四日同二十八日(火) 午後八時 出發三條大橋ヨリ京阪電車

ニテ

法界寺

醍醐寺三寶院(伏見稻荷)

同 館宿泊

第十五日同二十九日(水)大徳寺(孤蓬庵)

光悦寺(金閣寺、仁和寺、妙心寺)

廣隆寺(嵐山)

三十三間堂(智積院、高臺寺)

同 館宿泊

第十六日同三十日(木) 京都博物館 解散式

午後四時三十二分 京都驛發

第十七日五月一日(金) 午前七時 東京驛着 解散

備考 日程ハ都合ニ依リ一部變更スル事アル可シ

五月三日土ハ特ニ休暇トス

この大正十四年四月の旅行は北村西望(教授)、石田英一(同)、

和田季雄(助教)、新納忠之介(臨時囑託)、岸熊吉(同)、阪谷良之進(同)、関保之助(同)、増井兼吉(書記)、北浦大介(同)、古宇田正雄(雇)が引率にあたり、日本画科十二名、西洋画科十八名、彫刻科塑造部七名、同木彫部五名、建築科四名、図案科九名、金工科七名、鑄造科三名、漆工科四名が参加した。

前掲の修学旅行心得に「修学旅行報告」提出義務の規定があるが、校友会は大正九年『東京美術学校校友会月報』第十九卷以降每卷一冊を修学旅行号として発行することとし、その中に生徒の報告書を掲載することにしたので、今日でも生徒がいかなる報告をしたかが分かる。紀行文、日誌、感想文などが多いが、吉田五十八の「石山寺金剛三昧院多宝塔形態比較論」(第二十卷第三号所載)や西田正秋の「仏像の顔面研究」(一)(二)(第三十四卷第三号所載)をはじめとして学究的な内容のものも少なくない。また、修学旅行号には旅行の日程表、写真、スケッチ、旅館での指導教官の講話などが掲載されているので、見学の様子がよく分かる。旅行を了えて帰京した後は「旅行収獲展」と題して旅行中のスケッチを展示する習わしだったらしい。

⑤ 鈴木清の起用

大正十二年六月十八日の『都新聞』に、「東京美術學校に工藝學の新講座 金屬工藝の統一を期して講師は新歸朝の鈴木氏」の見出しで、鈴木清の起用が次のように紹介されている。

從來日本の貴金屬工藝は生産といふことより美術方面に重きを